

今月の

用語

隣に伝えたい

新たな言葉と概念

【IGRA】

英 Interferon-Gamma Release Assay

和 インターフェロン- γ 遊離試験

略 IGRA

類 クォンティフェロン[®]TB ゴールド, T-スポット[®].TB

〈解説〉

IGRA とは、Interferon-Gamma Release Assay の略語であり、結核菌特異抗原により全血あるいは末梢血単核球を刺激後、産生されるインターフェロン γ (IFN- γ) を測定し、結核感染を診断する方法である。IGRA には2種類あり、1つはすでに診断試薬として広く用いられているクォンティフェロン[®]TB ゴールド (QFT)、もう1つは2012年11月に販売され保険適応となった T-SPOT[®].TB である。QFT は採血した全血を検体とし、結核菌特異抗原 (ESAT-6, CFP-10, TB7.7) の刺激により産生された IFN- γ を ELISA 法により測定する。T-SPOT[®].TB は採血後に分離した末梢血単核球を検体として用い、結核菌特異抗原 (ESAT-6, CFP-10) の刺激により産生された IFN- γ を ELISPOT 法により測定する。すなわち、刺激により IFN- γ を産生したエフェクター T 細胞は暗青色に染色され、そのスポットの数により結核感染の有無を判定する。

IGRA で使用する刺激抗原は結核菌群に特異的であり、BCG 接種の影響を受けないため、従来の感染診断法であるツベルクリン検査と比較してその特異度は格段に高い。さらに、IGRA はツベルクリン検査と異なり、医療機関への再診が不要であり、ブースター効果も無いという利点を持つ。T-SPOT[®].TB は QFT より感度がやや高いといわれるが、両検査法とも偽陰性、偽陽性のあることに注意すべきである。5歳以下の乳幼児では QFT の診断精度は課題とされている。IGRA は活動性結核患者が発生した事例の接触者健診、医療従事者の雇入れ時や定期的な健康診断における潜在性結核感染の診断に用いられる。また、活動性結核が疑われるが各種検査において結核菌が検出されず確定診断に至らない場合、IGRA は結核の診断補助として有用である。

(国立病院機構東京病院 小林信之) 本誌202p に記載